

# K O G E I

## 2023

東京藝術大学 美術学部 工芸科 2023年度 学科案内



TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS  
DEPARTMENT OF CRAFTS  
COVER: 寺内 木香 / 修了制作 [買上げ作品]  
TITLE: In the jumble scenes SIZE: H170 × W100 × D100cm



上野校地 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8  
取手校地 〒302-0001 茨城県取手市小文間5000

東京藝術大学ウェブサイト [www.geidai.ac.jp](http://www.geidai.ac.jp)  
工芸科ウェブサイト [www.kogei.geidai.ac.jp](http://www.kogei.geidai.ac.jp)  
お問い合わせ先: 050-5525-2075 (東京藝術大学生課入学試験係)

## ご挨拶

東京藝術大学工芸科は彫金、鍛金、鋳金、漆工、陶芸、染織という分野で専門性の高い教育を上野の地で続けています。素材の扱いやそれを用いて制作するための技術がアーカイブされ常に更新されてきました。ここには確かな歴史が息づいていて私たちはそこで制作研究を続けています。1991年には茨城県取手市に取手校地が開設され陶芸の登窯、木工芸、ガラス工房が稼働しています。さらに2022年度より取手校地の豊かな自然環境の中で、素材造形(木材・ガラス)分野を新たに設けました。

世界的なコロナパンデミックの中、工芸作品の持つ力、手で物を作ることのリアルや人々の繋がり、工芸とその周辺を考えることは最も今日的な問題と言えるのではないでしょうか。工芸科では現代に即した表現を模索し、継承していくことと革新することを問い続けています。

東京藝術大学工芸科で学び、未だ気づいていない自分自身を発見し、豊かな才能を開花させて世界に羽ばたいてもらいたいと思います。世界中から注目される日本の工芸の表現の現場がここにあります。

東京藝術大学美術学部工芸科 科長 三上 亮



# 入試について

◇ 問題文は本学ウェブサイト 入試情報<<http://admissions.geidai.ac.jp>>からご覧頂けます。

工芸学部入学試験は、第1次試験の鉛筆写生、第2次試験の平面表現、立体表現、大学入学共通テスト、出身校の調査書から総合的に審査し判定します。

受験科目だけのエキスパートになるのではなく、様々な場面において力を発揮する柔軟な学生を求めています。

## 鉛筆写生

写生は、あらゆる意味で創作活動を支える造形の源になるため、工芸科では高い水準のデッサン力を有した人材を求めています。モチーフの観察から得られた発見や感覚は、素材を扱って作品制作をする工芸科にとって大切なことと考えます。

## 平面表現

描写力や構成力をつけることが基礎となり、同時に豊かな色彩感覚を身につけることで工芸独自の質の高い作品を制作することが可能になります。対象を観察し構成する能力は、素材を扱い制作することに必要な、豊かなイメージや感性を養うことにも繋がります。

## 立体表現

モチーフの的確な観察による空間を意識した立体感の把握、質感の表現は、立体表現における基本です。さらに工芸科の専門分野の様々な素材に対応できる柔軟な能力と、個性溢れるイメージや発想の独自性などが必要となります。

## 2023年度 合格者作品

### 〔鉛筆写生〕



### 〔平面表現〕



### 〔立体表現〕



# カリキュラム

2022年度学部入学学生より、彫金・鍛金・鍍金・漆芸・陶芸・染織の6分野と、新たに取手校地を中心に教育研究を進める素材造形(木材・ガラス)を加えた7分野編成にて授業展開を行っています。授業は各分野の特徴ある工房を使用した実技指導と、歴史ある資料などを用いた個人指導を中心にしています。1年次は、基礎的な表現力と造形感覚を習得するため、工芸科各分野の専門技法と絵画科、彫刻科教員による日本画や素描、塑造という美術全般にわたる授業を行います。2年次より7分野に分かれて専門的な造形表現や知識を習得していきます。3年次には、複合的な学生の育成を目指し、分野の領域を跨いだ工芸総合演習を実施します。4年次には卒業制作に取り組み、学部での成果を発表します。多くの学生が大学院に進学し、各自の専門性をさらに高めて社会に出ていきます。  
※2021年度学部入学以前の学生は、入学当初の分野編成で卒業までの授業展開を行います。

		学部			
		1年	2年	3年	4年
工芸	・基礎造形実習	彫金	・基礎技法 ・接合 ・装身具制作	・象嵌 ・打ち出し	
	・実材実習 [彫金・鍛金・鍍金・漆芸・陶芸・染織]より 3分野を選択 素材造形(木材・ガラス)から1つを選択	鍛金	・道具整備 ・基本回転絞り ・花器制作	・機械工作演習 ・変形絞り	・溶接実習 ・鍛造実習
	・塑造実習	鍍金	・道具制作 ・生型鑄造 ・真土込型鑄造 I	・石膏鑄造 ・精密鑄造 ・着色研究	・真土込型鑄造 II ・溶接実習(隔年)
	・絵画実習(素描)	漆芸	・道具制作 ・手板制作 ・工程手板制作	・蒔絵 ・螺鈿、卵殻、平文	・木工造形実習 ・研究制作
	・絵画実習(毛筆・日本画)	陶芸	・粘土づくり ・轆轤成形 ・窯炉焼成	・登り窯焼成(隔年) ・釉薬見本制作 ・石膏型成形	・轆轤成形 ・窯炉焼成 ・登り窯焼成(隔年)
	・表示図法	染織	・色見本制作 ・ろうけつ染 ・紅型、型染 ・スクリーン捺染	・基本織り組織 ・拵織 ・二重織	・友禅染 ・絞り染
	*工芸科教員による工芸制作論が必修科目です。 *教職課程、博物館学課程を選択し履修できます。	素材造形 【木材・ガラス】	【木材】 ・道具仕立て ・指物、曲物 ・刳物、挽物	【ガラス】 ・ホットワーク ・キルンワーク ・コールドワーク	【木材】 ・木材造形演習 ・木工技法材料演習(家具)
			古美術 研究旅行	工芸 総合演習	研究制作

		修士	
		1年	2年
彫金	・彫金技法研究 ・精密鑄造実習	・溶接実習 ・彫金制作法	・彫金技法研究 ・彫金制作法 ・研究制作
鍛金	・鍛金技法研究 ・精密鑄造実習 ・鍛金制作法	・取手工機室実習 ・七宝演習 ・研究制作	・鍛金技法研究 ・鍛金制作法 ・研究制作
鍍金	・鍍金技法研究(減圧鑄造) ・精密鑄造 ・鍍金技法研究(セラミック鑄造)	・鍍金制作法 ・研究制作 ・溶接実習	・鍍金技法研究 ・鍍金制作法 ・研究制作
漆芸	・漆造形技法研究 ・漆装飾技法研究	・漆芸歴史研究 ・研究制作	・漆造形技法研究 ・漆装飾技法研究
陶芸	・陶磁技法研究 ・窯炉制作実習	・登り窯焼成 ・研究制作	・陶磁技法研究 ・研究制作
染織	・染技法研究 ・織技法研究	・取手草木染研究 ・取手ファイバーワーク	・染技法研究 ・織技法研究
素材造形 【木工芸・ガラス造形】	【木工芸】 ・木工技法材料研究 ・木材造形研究 ・研究制作	【ガラス造形】 ・ホットワーク ・キルンワーク ・コールドワーク	【木工芸】 ・木工技法材料研究 ・木材造形研究

\*本カリキュラムは、改定になる可能性があります。

## 2023年度 工芸科教員

〔彫金〕 教授 前田 宏智 教授 岩田 広己 テクニカルインストラクター 中安 麗・崔 壽現 教育研究助手 松本 真実・熊坂 美友	〔陶芸〕 教授 三上 亮 准教授 椎名 勇 テクニカルインストラクター 茂田 真史・岩淵 真理 教育研究助手 高橋 侑子・中嶋 雄里	〔素材造形(木材・木工芸)(ガラス・ガラス造形)〕 講師 菌部 秀徳 教授 藤原 信幸 テクニカルインストラクター 中内 安紀徳・奥田 康夫・地村 洋平 教育研究助手 小石 崇弘・キム ドヨン
〔鍛金〕 教授 丸山 智巳 准教授 志村 和彦 テクニカルインストラクター 岩崎 裕祐・塩見 亮介 教育研究助手 瀧澤 花織・鎌田 晶	〔漆芸〕 教授 小椋 範彦 准教授 青木 宏暲 テクニカルインストラクター 佐々木 岳人・田中館 亜美 教育研究助手 新井 寛生・伊藤 ミナ子	〔工芸〕 助教 佐治 真理子 教育研究助手 三塚 貴仁・石井 淳 〔取手工芸〕 テクニカルインストラクター 下城 爽
〔鍍金〕 教授 谷岡 靖則 准教授 三枝 一将 テクニカルインストラクター 南 時俊・見目 未果 教育研究助手 金 孝真・堀田 光彦	〔染織〕 准教授 橋本 圭也 准教授 山田 菜々子 テクニカルインストラクター 朱 軼姝・海老塚 季史 教育研究助手 大小田 万侑子・千田 華子	

## 制作風景



# 工芸科の学内行事

工芸科では、研究の一環として古美術研究旅行をはじめ、様々な行事やイベントを行います。学生主体で一つのイベントを成し遂げる事や、国際的な視野を広げる経験は、通常の授業とは異なる貴重な機会となります。

\*コロナ禍で例年と方法を変更しての開催や中止となる行事もあります。

## 古美術研究旅行

学部3年生の4月に2週間、奈良と京都の神社仏閣を見学します。状況に応じてオンライン授業と関東での見学・研究を行う場合もあります。



## 国際交流 (変更)

海外よりキュレーターや美術大学教員などを招聘し、国際的な視野を広げ、世界に通用するアーティストを目指した交流授業を行います。2020年度からはオンデマンドの講演会やオンラインでの授業を取り入れています。



## 卒業・修了作品展

学生制作活動の集大成となる、学部・大学院の研究成果展です。「東京都美術館」「東京藝術大学美術館」などの会場で作品の展示発表を行います。コロナ禍ではバーチャル展覧会も開催しました。



## 学内外の交流や展示発表

2020年からオンラインなどを導入して工夫をしながら授業展開を行っています。コロナ禍3年を過ぎ、学外での展示会、研修旅行などの研究の機会や、海外講師を招聘しての講演会、藝祭のアートマーケットや展示など、交流や発表の機会が増えています。



## 新入生歓迎会 (変更)

工芸科に入学して最初のイベントです。コロナ禍でも繋がりを大切にするため、オンデマンドを使用したり工夫をして新入生の紹介や分野の紹介を行っています。



## 各分野ごとの祭事 - 彫金・鍍金・鍍金=編祭 / 漆芸=輪軸祭 / 陶芸=餅つき - (変更)

工場の安全を祈願する祭事です。工芸科にとって、道具や工房は大切なものであり、これらの祭事は毎年欠かすことのできないものです。



コロナ禍では祈願のみ各分野で執り行っています。



## 藝祭

学部1年生は各科グループになって神輿と法被を制作し、上野公園でパフォーマンスをします。



## 研究旅行

各研究室で企画する旅行です。学部1年生は親睦を深めるため、分野はそれぞれの研究分野への理解を深められるような訪問先を選び、制作に生かします。



## スポーツ大会 (中止)

工芸科全体で行うイベントです。留学生も含め工芸科の学生が一堂に集まり親睦を深めます。各分野の威信をかけた戦いに、学生達は勿論、教員も大いに盛り上がります。



## 専門分野紹介

### 彫金

たがね  
鑿を操り生み出される繊細な世界

彫金は、主に金錘と鑿(たがね)を使用して、金属を彫る、立体的に打ち出す、他の金属をはめ込み象嵌(ぞうがん)をするなど、様々な加工技術を基礎として学びます。金属の切削性や可塑性を生かし、金属同士をつなぎ合わせて器やオブジェ、ジュエリーなどの作品が制作されています。また本学の取手校地には金工工房表面処理室があり、七宝焼きについてもカリキュラムを設けて学んでいます。素材には銅・真鍮(黄銅)・錫・鉄・ステンレス・アルミニウム・チタニウムや金・銀・プラチナなどの貴金属、伝統的な日本の合金である赤銅・四分一などがあります。カリキュラムの進行とともに技術や素材の体験を重ねて、感性や表現力を高め、学生それぞれの研究テーマによって制作研究が進められます。たえず生活空間全体を意識し、現状における表現方法の在り方を探求して新しい個性を築き、世界に発信しています。



透かし彫りの技法によるコンテンポラリージュエリーの仕上げをしています。



紡いだ銅線に釉薬を焼き付け立体作品を制作しています。

### 卒業後の進路

株式会社ミキモト装身具 / クラフトマン

2020年卒業 中島 萌



作品画像:2020年卒業制作より

元々金属に興味があったので、金工の中で作業していて一番楽しかった彫金を専攻しました。大学を卒業後も金属を扱う仕事をしたいと思い、ジュエリーの会社にクラフトマン(職人)として就職しました。現在はデザイナーが描き起こしたデザイン画を元に、主にCADソフト使って設計し、金やプラチナなどの貴金属でジュエリーを制作しています。デザイナーの意図を汲み取りつつジュエリーとしての機能や強度、美しさは勿論、付け心地などを考えて造形していくのは、学生時代の自由な制作とは違った難しさや緊張感があります。どうやって作っていくか悩むことも多いのですが、あれこれ試行錯誤していく中で、在学中の様々な経験や培った造形力が今の仕事に活かされていると感じています。

### 鍛金

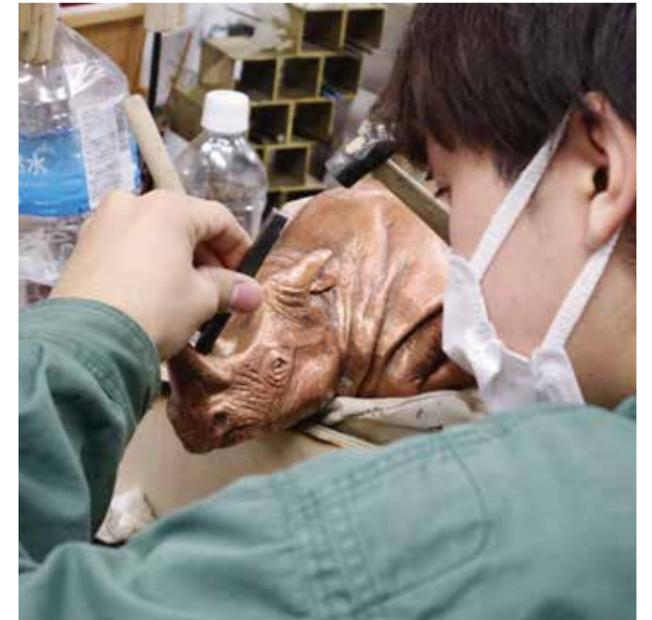
金錘を用いて多彩な造形を作り出す

鍛金は、銅などの様々な金属の板を金錘で叩き立体へ加工する“絞り”と、鉄の棒材などをバーナーや炉で赤くなるまで熱し叩いて加工する“鍛造”の2つの伝統技法を軸としています。

カリキュラムは、基本手絞り実習(回転体)・1枚変形絞り(動物制作)・鍛造実習・接合実習(木目金制作、ロウ付け等)があります。これらの基礎技法に加え現代的な機械加工・各種接合技術なども実習を通して学ぶことで、金属造形の基礎知識と総合的な表現力を養い、より幅広い創作力の向上と多岐にわたる作品制作を目指しています。卒業後は、現代美術家・伝統工芸作家として独立し活動している者や、専門知識を活かしデザイナー(建築・内装・広告・プロダクトなど)・教育者・研究者などの職に就く者など、様々な方面で活躍しています。



一枚の銅板を、様々な金錘と当金を用いて造形します。



細部はタガネでつくります。

### 卒業後の進路

鍛金作家

2015年修了 三木 瑛子



私はホテルなどに飾るアートを制作しながら、時々数ヶ月の旅に出て、様々な国の人・文化・自然に触れて感じたことを自身のアートに吹き込んで作品発表をしています。ここ数年は南米コロンビアを訪れ、工芸品を作る原住民の人達や現地のアーティストとコラボして、異文化が交わることで生まれるメッセージを込めた“ものづくり”に取り組んでいます。鍛金が魅力的だと感じる点は、金属の形や表情がダイナミックに変化する姿を見ながら、自分の心と共鳴するところで形をとどめていくことです。“世界のどんな人ともつながれる”という可能性を感じて選んだ芸術の道なので、その初心を忘れずに私なりの芸術との関係を深めていきたいと思っています。

## 鑄金 イメージにあるかたちを視えるかたちに

鑄金とは、粘土などの造形し易い素材で制作した原形を雌型として抜き取ることで鑄型をつくり、その3~4mmの隙間に溶解した流動性の良い合金を流し込むことによって造形される技法を言います。つまり、鑄金では溶けて液体となった金属が再凝固することで、他の造形法にはみられない独特の表現を成すことができます。こういった鑄金造形の制作法は世界各国の民族によって独自の特徴ある方法で太古の昔から行われており、その民族嗜好がとても分かり易い形で造形されて残っています。本学の鑄金研究室では130年の歴史の中、楠木正成像などの彫刻や日本橋麒麟像なども鑄造しつつ、工芸としての美を追求してきました。現代による表現でも、鑄金による造形としての重厚さに兼ね合せて精密鑄造技法によるとても繊細な表現も可能となり、現代志向での新しい表現に向けて秘めた可能性を試行しつつ急進的な制作をしています。卒業後は企業への就職、大学院修士・博士過程への進学や海外留学などを通してより深めた独創性ある研究の中、その成果を糧に美術作家・デザイナー・教育者として国内外で活躍しています。



石膏原形から雌型として抜き取り、耐火度のある土の鑄型に金属を流し込みます。



1080°C前後の溶解温度で銅合金を流し込みます。その場面を「吹き」と言います。

### 卒業後の進路

有限会社ソラ / 営業企画部セールsteamリーダー

2012年修了 坪井 紀都



私は鑄金研究室を修了後、デザイナーとしてオーダーメイドのジュエリー会社へ就職しました。大学時代に作品制作を行う中で社会との繋がりを考える機会があり、自身の作家活動だけでなく誰かに対して提案を行うという道にも興味が湧き模索する中で、作家活動も認めている今の会社に出会いました。鑄金では完成までの工程を緻密に組み立てることの重要性を学び、原型を金属にするゴールまでのプロセスをイメージする力は、社会に出た時にも役立つ方だと思います。また、学生時代に表現するという事について考えんだこともデザイン提案を行う時の基盤になっていると思います。大学での貴重な経験は人との出会いも含め私の財産であり、今とても充実した日々を過ごしています。

## 漆芸 伝統に育まれた自由な立体造形

漆芸はウルシの木から採取した樹液を用いた芸術です。その歴史は古く、縄文時代から漆は塗料や接着剤の用途で使用され、アジア独自の素材表現として広く知られています。

東京藝術大学の漆芸教育は基本的な塗りの工程(下地、研ぎ、塗り、磨き)から素地制作(乾漆、木胎)、装飾技法(蒔絵、螺鈿、平文、卵殻、沈金、変わり塗りなど)まで一貫した授業を行っています。また漆に関わる外部専門家による集中講義、歴史研究、漆芸ギャラリーでの企画展示、国際交流などを行い、幅広い視野を持った学生を育成するとともに、学生の自主性と社会への発信力を培っていきます。自己の世界観を探求し、多様な漆芸表現を創作研究することで豊かな感性を養い、社会で活躍できる人材を育てます。卒業後は大学院へ進学し、研究をさらに深める学生も多く、そこから作家・教育者・研究者・デザイナーなどとして国内外で活躍しています。



伝統的な装飾技法である蒔絵をはじめ、様々な技法を基礎から学びます。

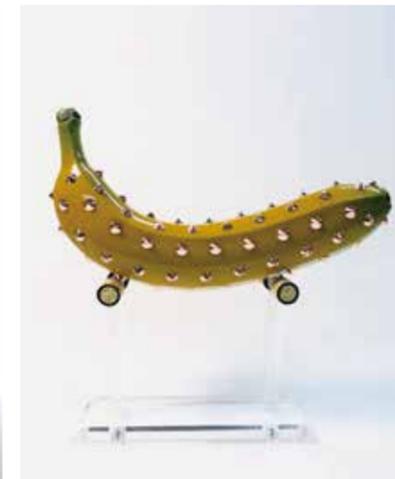


最終的な研ぎ作業。完成まであと少し。

### 卒業後の進路

漆彫刻家 / 金沢卯辰山工芸工房 研修者

2020年修了 野田 怜真



念願の藝大入学後、初めて漆に触れた授業で乾漆造形技法に出会い漆芸専攻へ進みました。工芸科は比較的学生数が少ないので先生方や先輩方と距離が近く、多くのことを教示していただきました。また、授業課題を通して蒔絵技法や螺鈿技法、日本各地で育まれた漆塗り技法など幅広い基礎実技や知識を学びました。大学院の時、取手校地での制作研究は自然豊かな環境で花鳥風月に触れながら表現を深め、先生方からの講評を繰り返して研究に励んだ事は印象深く残っています。漆の制作は時間が掛かります。時間が掛かる高度な技術を取得する事は自信にも繋がります。また日本と漆の繋がりは深く、作家を続ける上でのアイデンティティも感じています。現在も藝大で学んだ技術や知恵や自信を基に作家活動に励んでいます。

## 陶芸

### 培ってきた伝統と現代の陶芸の可能性

陶芸は、伝統技法を基本にした学びから、工芸的感性や用の美を踏まえた制作、そして素材研究から生まれる造形性を重視した教育へと学年の進行と共に発展的に行っています。学生自身の柔軟な発想力を生かしながら実技の積み重ねによって、創造性に溢れ広い視野を持った、第一線で活躍できる人材の育成を目標としています。技術面では、轆轤成形、築窯実習、登り窯をはじめ多様な窯の焼成実習、釉薬の調合、デザイン性を主とした石膏鋳込成型など、多岐にわたる陶芸の基礎的な技法を広く学ぶことができます。独自の発展を遂げた日本の陶芸は、世界からますます注目されており、その伝統を礎として海外との交流にも力を注いでいます。



大壺大会。制限時間を設け、学生全員で壺の轆轤挽きを競い合っています。



登り窯実習。

## 卒業後の進路

### 陶芸作家

2015年修了 北郷 江



土という自由自在な素材から陶となったとき、どのようなカタチで人に寄り添い、空間の中に置かれるか。私が大学で学んだことはなんだろう？と考えたとき、「素材での表現の仕方」というのが浮かびました。私は学生のころから今に至るまで動物のオブジェを制作することが多く、生態の骨格や特徴、童話や昔話を手がかりに、物語の一コマのような表現と短編の物語とともに鑑賞する作品を目指し、今も作家活動をしています。器をつくるように動物を作ったり、人々に寄り添うカタチの研究は、当時一生懸命に一つの茶碗を作っていたときと今も同じです。素材に向き合うことの面白さや、人に寄り添う姿かたちの自由さや喜びは、陶という素材に出会えたからこそあり、今の制作や仕事に繋がっているのだと思います。

## 染織

### 新しい感性が、今を染める、今を織る

染織は、伝統と現代の融合・発展を教育理念に、工芸においてアートとデザインの双方を兼ね備えた人材育成を行っています。カリキュラムの特色は、染と織の多様な技法をバランス良く編成し、基礎と専門の段階的教育によって技術・表現と知識・理論の専門能力を身につけることができます。各自の個性を生かしながら、染織表現における多角的視野と多様性を学び、将来の方向性を見出していきます。

社会で幅広く貢献できるようプレゼン能力を身につけ、次世代の染織作家や教育者、テキスタイル・ファッション・空間演出などのデザイナー、起業家として独自のブランド展開をしていける人材と、グローバル化に対応できる人材を輩出します。



糊や蠟で防染する伝統染色技法や、スクリーン捺染によるリピート表現を学び、柔軟な思考による現代的な表現を探求します。



糸を染め、紡ぎ、織る。多様な繊維素材を扱い、多様な織技法を習得し特有のテクスチャーを活かした造形表現が可能となります。

## 卒業後の進路

### takaneco / かが作家

1999年修了 山田 貴音



学生時代に出会った素材ラフィアを使い、コイリングの技法を用いて独自のかごを作り続けています。染織研究室修了後は(株)サザビー(現サザビーリーグ)に就職しバッグデザイナーの仕事に就きました。その後フリーとなり、主にトライオン(株)のデザイナーとして18年間バッグ(レディース皮革・天然素材)の企画開発に携わりました。子育て時期と重なり主に自宅で仕事をしていましたので、時間を調整しながら制作したり、かが作り教室を開催したりと活動を続けてきました。大好きなバッグの商品開発(2020年に離職)と、かが作り。両方やって来たことで自分自身のバランスを保っていたのかもしれませんが、それぞれが影響し合い、時にはその2つが繋がりながら今まで歩んできたように思います。

# 素材造形（木材・木工芸/ガラス・ガラス造形）

素材造形分野では、選択した木材またはガラスを主に扱いそれぞれの造形・技法について、演習を通して学びます。木材の演習では、木工に必要な道具の仕立てから、各種基礎技法の演習、総合技法としての家具制作や木材造形を学びます。ガラスの演習では、ホットワーク、キルンワーク、コールドワークなどガラス造形に必要な技法を学びます。取手校地にある様々な工房を利用しながら、素材を通して思考する造形を目指し、卒業・修了制作では自立した研究制作ができる人材育成をします。

## 木材・木工芸 研ぎあげた刃物で多様な造形を組み上げる

木工は世界の歴史の中で多様な姿と役割を担ってきました。建造物や家具、道具、室内装飾などがあります。その中で日本の木工に注目すると、その造形の考え方や技法、並びに使用する道具の発展に独自性と洗練が見て取れます。本校の木工のカリキュラムでは、木を組む事を中心に据えながら様々な造形と技法を学び、それらを成立させる背景について学びます。卒業修了後の進路は木工に従事する者、美術家、起業する者、企業のデザインや企画部門への就職、教育者や研究者など様々な方面で活動しています。



箱の角をつなく継手を作る様子。

### 卒業後の進路

#### 木工作家 / デザイナー

2016年修了 村尾 信太郎

1990年、東京都出身。武蔵野美術大学木工専攻卒業、東京藝術大学大学院木工芸専攻修了。主に木工家具のデザイン、製作まで行う。2022年からインテリアブランド『MURPH』を設立。マーフという架空の人物の住む家づくりをコンセプトに、家具や生活に関わるオブジェクトの制作を行う。多様性を受け入れ、調和し、強くしなやかな芯を持つマーフの人物像を通して、日常の美しさを提案している。



## ガラス・ガラス造形 変幻自在なガラスの可能性を追求する

ガラス造形技法を大きく分けると「吹きガラスを代表とするホットワーク」「電気炉を使って制作するキルンワーク」「切り子などガラスを加工するコールドワーク」があり、これら全ての技法を学ぶことができます。教員と頻繁に行うチュートリアルや、国内外の作家を招き、実践的で幅広い視野を持った授業を行うことで、造形力だけではなく「考える力」「表現する力」を持った、総合力の高い作家の養成を目指しています。卒業後は、個人工房やブランドを立ち上げて、作家活動をする他にガラスメーカーや工房、教育機関に就職をしています。



成形したガラスを構成している様子。

### 卒業後の進路

#### ガラス作家 / 非常勤講師

2018年修了 濱田 敬史

専攻を決めるきっかけはガラスが熱や重力という自然の力に、人の手と息による仕事が入ることで生まれる形に魅力を感じたからです。大学院ではその点について研究しオブジェとして表現しました。卒業後、非常勤講師として高校等で勤務し、生徒と関わる中で新しい学びや発見がありました。その中で作品制作は生活に寄り添う器を作ることが増えました。しかしながら、初めに感じたガラス本来の持つ魅力を伝えられる様に制作を続けたいと願っています。



# 進路について

工芸科の学生は学部卒業後、それぞれの夢に向かって羽ばたきます。

大学院へ進学し制作や研究を続ける、企業や教育機関・工房などに勤める、自身のブランドを立ち上げて独立するなど、その進路は様々です。

勿論作家活動を続け、ギャラリーやアートフェアなどで作品を発表し、コンペティションで受賞する卒業生を始め、卒業生は、学生生活の中で学んだ知識や経験を基に、デザイナーや制作者など、それぞれの分野でその能力を発揮しています。

## 主な就職先一覧

製造・ブランド	販売	教育機関
株式会社平林七宝 株式会社プラスラフ 株式会社BRUNCH 株式会社ベリテ 本田技研工業株式会社 株式会社本保 株式会社マーブルシュッド 株式会社マイトデザインワークス 株式会社まんだらけ マルミツ陶器合資会社 ミカレディ株式会社 株式会社ミキモト 株式会社ミキモト装身具 minä perhonen 株式会社三八染工場 株式会社ミライロ 村瀬治兵衛工房 株式会社目黒工芸 株式会社目白漆芸文化財研究所 株式会社奎目金屋 有限会社モメンタムファクトリー・Orii 株式会社モンベル ヤマハ発動機株式会社 UHA味覚糖株式会社 ユニベル株式会社 株式会社ヨーガンレール 吉田テクノワークス株式会社 株式会社良品計画 株式会社ワコール 1-UPスタジオ株式会社	株式会社ポリフォニー・デジタル 株式会社マイナビ 株式会社MaGO EXPERIENCE 株式会社モルフォ ギャラリーきくら主幹 株式会社九つ井 株式会社そごう・西武 株式会社高島屋 株式会社中南海トレーディングコーポレーション 株式会社東急ハンズ 株式会社バーニーズジャパン プリモ・ジャパン株式会社 株式会社ベルニナジャパン 株式会社モード・エ・ジャコモ 株式会社ユナイテッドアローズ	茨城県立取手松陽高等学校 宇都宮文星女子高等学校 香川県公立高等学校 学校法人跡見学園 学校法人麻布学園 学校法人鎌形学園東京学館船橋高等学校 学校法人玉川学園 吉祥女子中学高等学校 慶應義塾中等部 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部 埼玉県立進修館高等学校 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学校 社会福祉法人葛飾学園 昭和第一学園高等学校 女子美術大学付属高等学校・中学校 聖光学院中学高等学校 聖ヨゼフ学園中学・高等学校 千葉県立泉高等学校 千葉県立流山中央高等学校 千葉県立幕張総合高等学校 千葉県立八千代高等学校 東京学館船橋高等学校 東京都立有徳高等学校 東京都立工芸高等学校 成田高等学校 日々輝学園高等学校 明星学園中学校 【専門学校等】 会津漆器技術後継者訓練校 青森県産業技術センター弘前地域研究所 石川県立輪島漆芸技術研修所 沖縄県工芸技術支援センター 御茶ノ水美術学院 香川県漆芸研究所 柏美術学院 学校法人文化学園 学校法人水野学園 金沢卯辰山工芸工房 富山市立富山ガラス造形研究所 武蔵野学芸専門学校 山梨県立宝石美術専門学校
企画・デザイン・印刷		
株式会社アートナウ 株式会社アクア 永大産業株式会社 株式会社HDR 株式会社岡村製作所 株式会社オズ 株式会社オリエンタルランド 株式会社クリチャーズ 株式会社グレーストーン コナミホールディングス株式会社 株式会社コンチェルト 株式会社サイバーエージェント STUDIO NIJI 株式会社セントラルプロフィックス 合同会社DMM GAMES 株式会社大日本印刷 デザインフェスタ有限公司 株式会社デサン 株式会社テレビ朝日クリエイト 株式会社電通 凸版印刷株式会社 株式会社ドラフト 日本プレイディ株式会社 株式会社バルス 株式会社Plan・Do・See 株式会社パルコス	株式会社モルフォ 株式会社モード・エ・ジャコモ 株式会社ユナイテッドアローズ 【大学】 会津大学短期大学部 青山学院大学 秋田公立美術大学 宇都宮大学 桜美林大学 沖縄県立芸術大学 金沢美術工芸大学 九州産業大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 静岡文化芸術大学 四川美術学院(中国) 女子美術大学 杉野服飾大学 多摩美術大学 筑波大学 大邱大学校(韓国) 東京家政大学 東京藝術大学 東京工科大学 東京造形大学 東京大学 東北芸術工科大学 東北工業大学 東北生活文化大学 富山大学 長岡造形大学 広島市立大学 文化学園大学 文星芸術大学 北京市立大学(中国) 武蔵野美術大学 横浜美術大学 【高等学校・中学校・小学校】 青山学院横浜英和中学高等学校 茨城県公立高等学校	伊勢神宮 市貝町役場 株式会社フォルトゥーナ 株式会社メーカーズ 警視庁 社団法人日本クラフトデザイン協会 独立行政法人国立印刷局 独立行政法人造幣局 アトリエTOCOHA 新見市役所企画政策課 八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 星野リゾート ユカイ工学株式会社

# 卒業・修了作品の紹介

## 学生生活の集大成

卒業・修了制作は、学生が作家、あるいは研究者として世界に踏み出す第一歩となります。工芸科での制作は、伝統の中で培われてきた技法を学び、知識を得て、さらに自己鍛錬し、素材の特性を見据えつつ、技術の習得を目指します。学生は大学で様々な経験を積み、技術の習得はもとより、新たな素材との出会いや創作活動の中で独自の表現を追求します。情熱と探究心を持ち、挑戦を続けた卒業・修了作品は、自己の創作活動の大きな区切りとなるだけでなく、工芸の世界に新しい可能性を提示し続けています。



彫金  
【修了作品】熊坂 美友  
**Carpe diem**  
銀メッキ・彫り・ろう付け / 銅  
H80 × W90 × D50cm



鍛金  
【卒業作品】重富 彩花  
**ひとつぶの私たち**  
銅・真鍮・鉄  
H133 × W87 × D28cm



陶芸  
【卒業作品】中澤 亮太  
**「水器」ロクロ成形**  
磁土・釉薬・ガラス  
H27 × W27 × D27cm



染織  
【卒業作品】林 ヨリ  
**▼select**  
綴織 / 綿糸・麻糸・風糸・木材  
H60 × W60 × D12cm 他3点



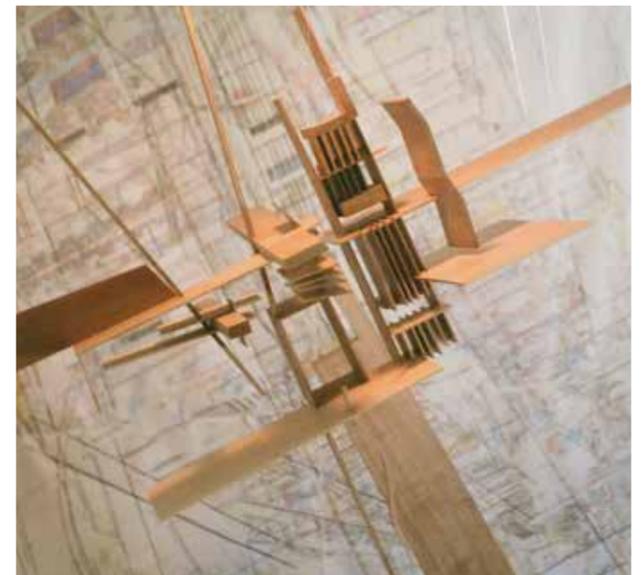
casting  
【卒業作品】亀岡 信之助  
**蝙蝠鍾乳石飾瓶**  
真空加圧鋳造・キルンキャスト・エナメル彩・エッチング / 四分一・赤銅・ガラス  
H30 × W30 × D7cm



漆芸  
【修了作品】矢部 桜  
**祈りの詩**  
蒔絵・沈金・変わり塗・乾漆 / 漆・木・麻・金属箔  
H26 × W20 × D2.5cm 他3点



ガラス造形  
【修了作品】金 到然  
**Illusion in my closet**  
キルンワーク / ガラス  
H20 × W30 × D30cm 他5点



木工芸  
【修了作品】尾前 勇向  
**形相**  
木  
H220 × W120 × D120cm

# 研究室紹介

工芸科は彫金、鍛金、鋳金、漆芸、陶芸、染織の6分野に、2022年度学部カリキュラムより併設された素材造形(木材・ガラス)を加えた7分野14研究室を有しています。

大学院(修士・博士課程)においては、専門分野を主軸とした教員それぞれのテーマやキーワードを強みとする研究室に所属し、指導教員と学生が面談をして学生自身の研究テーマを確定します。各研究室の技術力・発想力・行動力などの特性を生かした指導のもと、各々に必要な専門分野の研究を深めていきます。学部で得た技術・知識をさらに推し進めた専門性に特化する研究が可能であるとともに、世界各地にある国際連携校を含めた国際交流を積極的に行う研究室、社会連携や国内外のプロジェクトに参加する研究室など、国内外へ広く発信を行いつつ、学生の視野を広げる取り組みも行っています。

独創性・独自性を持ち合わせた教員による専門性のある研究室と多様な専門分野の設備を有している本学ならではの研究や経験を積むことのできる環境が整っています。



教授  
前田 宏智

MAEDA Hirotomi

専門分野：彫金  
テーマ：素材と手法の展開  
キーワード：金属素材の面白さ  
行為と表現



### comment

金属は元来鉱物として存在し、様々な性質、個性を持っています。有史前から作り手は対話を繰り返し、魅力を引き出し、試行錯誤を重ねてモノを生み出してきました。そのような観点から、彫金を中心とした様々な素材や技法、道具などをあらためて受け取り、現代に求められる表現のために作る力を広げたいと思います。



教授  
岩田 広己

IWATA Hiroki

専門分野：彫金  
テーマ：複合装飾  
ジュエリー  
キーワード：純粋と応用  
身体と造形  
感覚と思考



### comment

金属に装飾を施す彫金という造形行為をもとに、素材や技術は元より、思考を軸とした表現や対象とする事柄の本質を考え、様々な要素が重なり合う複合的な視点や手法で、人から空間に至る様々な場面における造形やジュエリー表現の可能性を求め研究を行っています。



教授  
丸山 智巳

MARUYAMA Tomomi

専門分野：鍛金  
テーマ：金属造形表現  
キーワード：伝統技法と現代



### comment

鍛金の伝統技法と現代の機器を用いて、より自由な造形表現の可能性を研究し、鍛金の要である道具造りから金工技法を学ぶことにより本質的な造形力を養う授業展開をしています。社会との連携においてもワークショップ等を介して金属造形の楽しさを提供しています。



教授  
谷岡 靖則

TANIOKA Yasunori

専門分野：鋳金  
テーマ：消失原型による  
細密鋳造表現  
キーワード：細密表現  
消失原型  
ロストワックス鋳造



### comment

ロストワックス鋳造法は紀元前から現代に至るまで使われている技法であり、世界各国どの地方でも実践されています。その技法は様々であり、鋳型にはその地方の特色も見られます。本研究室では美術鋳造の基本であるロストワックス鋳造法を多岐に亘る視点から紐解き、現代に於けるより細密な鋳造表現の可能性を探りながら新しい表現は何かを研究しています。



准教授  
志村 和彦

SHIMURA Kazuhiko

専門分野：鍛金  
テーマ：金属造形  
キーワード：鍛造表現



### comment

素材の特性を理解しつつ表現していくことで気づく自己の世界観や、伝統技法を基盤として新たな表現の可能性を探ることが大事だと考えます。素材、技法、自己の世界観のそれぞれを対話させながら、主に鉄を素材として鍛造技法による作品を展開しながら、金属造形表現の可能性を追求しています。



准教授  
三枝 一将

SAEGUSA Kazumasa

専門分野：鋳金  
テーマ：鋳造の芸術的表現  
キーワード：ロストワックス  
真土型  
型取り  
鋳造技術史研究



### comment

溶解した金属を鋳型に流し込む行為はシンプルですが特有の醍醐味があり、そこには刹那、永続、境界、象徴、模倣、変容などの意味と世界観を孕んでいます。また、工程の中で移り変わる多様な素材と対話することは私達の身体的な想像力を刺激してくれます。常にフィジカルに思考しながら、学生と共に現在進行形の鋳金表現を探索していきたいと考えます。



教授  
小椋 範彦

OGURA Norihiko

専門分野： 漆芸  
テーマ： 漆芸技法の応用  
キーワード： 蒔絵  
螺鈿  
乾漆  
伝統技法



comment

金属粉や貝を用いた伝統的な装飾技法(蒔絵や螺鈿)と造形表現(木胎・乾漆)に現代的な感覚を取り入れた漆芸技法の追求をしています。学生と共に漆芸技術のあるアジア圏を中心に交流を積極的に行い、研究成果を国際社会へ発信しています。



教授  
三上 亮

MIKAMI Ryo

専門分野： 陶芸  
テーマ： 焼成による素材変化  
キーワード： 窯構造・築窯  
土  
技術・技法  
陶の可能性



comment

窯構造、焼成方法、築窯を通して陶芸の視座を養い、土・素材自体を問い、新たな解釈、造形の可能性を追求します。



准教授  
青木 宏憧

AOKI Kodo

専門分野： 漆芸  
テーマ： 乾漆造形  
キーワード： 乾漆  
塗料表現  
漆液精製  
装飾造形



comment

漆は植物の樹液です。縄文時代から日本で使われてきた造形素材で接着剤、塗料の2つの役割があります。形を造るところから画材まで一貫して漆が主軸になり造形が可能です。制作にはとても時間を費やしますが、完成した時の輝きは他の材料では表現出来ない美しさがあります。



准教授  
椎名 勇

SHIINA Isamu

専門分野： 陶芸  
テーマ： 陶磁造形  
キーワード： 素材探求  
質感  
器  
表現



comment

陶磁造形素材の研究を進め、用途と美術表現の両視点から色彩・形態・質感との関係性を探求し、陶磁造形と物・人・空間・社会との関連性を追求しています。



准教授  
橋本 圭也

HASHIMOTO Keiya

専門分野： 染織  
テーマ： 繊維造形  
キーワード： 繊維造形・織・染



comment

繊維造形・織・染の造形活動を研究しています。学生個々の研究概要に沿って独自性を有する活動をサポートします。



講師  
園部 秀徳

SONOBE Hidenori

専門分野： 素材造形(木材)  
テーマ： 木工の技法と材料  
木材の造形  
キーワード： 木工とかたち  
手仕事と木工具  
木工における構造  
リレーション



comment

本研究室では木工技法材料研究と木材造形研究を主旨としています。この過程を通じて、一人一人が独自の素材観を培い技法の修練をしながらその制御を身につけます。また制作した作品や研究がその本質を衝くものであるか、教員学生共に批評性を持ちながら対話をしてゆきたい。それらを踏まえて創作のベースとなる豊かな感性や自立した理念を養い現代社会における有効な作品のあり方を探求し、そして人々との多様な良い関係性(Relationship)を築くものを見つけたいと思っています。



准教授  
山田 菜々子

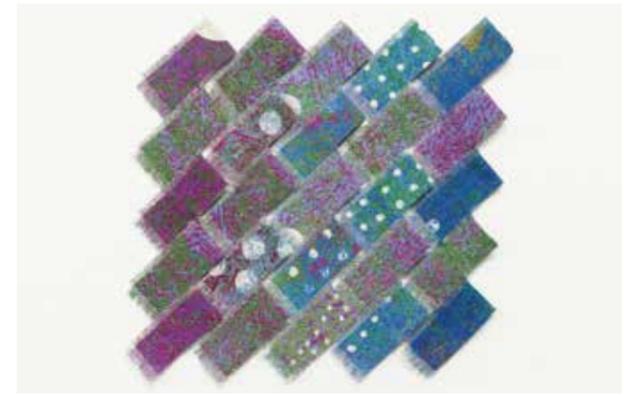
YAMADA Nanako

専門分野： 染織  
テーマ： 伝統染色技法の展開  
キーワード： 糊防染  
着色防染  
型染  
友禪染



comment

伝統染色技法である、友禪染・型染に着目し、糊による着色防染技法を使って独自の表現に展開し、新しい染表現を探索しています。また、それら伝統技術の記録・保存への取り組みも重要視し、その上で「染める」ことだけではなくテキスタイル全般の可能性や多様性に目を向け、柔軟な視点・思考に重きを置いた指導を目指します。



教授  
藤原 信幸

FUJIWARA Nobuyuki

専門分野： 素材造形(ガラス)  
テーマ： ガラス素材を用いた  
作品表現  
キーワード： 現在のガラス造形  
技法研究  
造形の社会実践



comment

伝統的な技法の習得を通して、個人の自己表現に留まらずに工芸、美術、芸術の社会に対する実践を学ぶ力をつけていきます。また、個人の制作と共に、研究室活動やプロジェクトに参加したりしながら経験を積んでいきます。留学生も多く、海外との交流も盛んに行っています。

